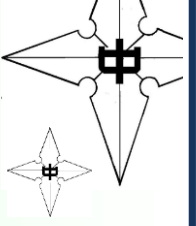


南浦和中だより

〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33 TEL 048(863)0753
FAX 048(836)1589 さわやか相談室直通 TEL 048(837)5909



『そして僕は途方に暮れる』

校長 おお ころ うち のり かず
大河内 範一



ちょっと前に、長年使用していた炊飯器の調子が悪くなった。米を炊く機能は残っているものの、中で発生する蒸気の勢いに耐えきれず、フタが途中でパカッと開いてしまうのだ。そこで我が家では、御飯を炊く際にフタにビニールテープを貼り付けて固定するという、応急処置としてはかなり完成度の高いシステムを確立した。しかし、便利とは言い難く、テープを貼るたびに「本当にこれでいいのか…」と、僕は少し途方に暮れていた。

さすがに限界を感じ、家電量販店へ向かった。店員さんの説明を受けながら炊飯器の世界をのぞいてみると、その奥深さに驚かされた。強力な火力で米を踊らせるもの、内釜を真空状態にして、長時間保温しても乾燥や変色を防ぐものなどなど。ただ米を炊くだけではなく、「どうすれば米が一番幸せなのか」ということを本気で追求していることが伝わってきた。

新しくなった炊飯器で御飯を炊いてみると、途中でフタが開くこともなく、粘りと甘みがあり、時間が経ってもカピカピにならず、ふっくらとした状態を保っていた。そして、その美味しさには驚愕した。(ビニールテープ時代がちょっと懐かしい…)

そこで、この御飯を使って、久しぶりに「おにぎり」を握ってみることにした。今回はオーソドックスな形にしてみたが、おにぎりの形にはさまざまな由来があるという。「三角形」は昔の人々が「山には神様が宿る」と信じていたことから、神様への祈りの形が今の三角形になったと言われている。また、「俵型」は米俵を連想させることから商売繁盛や五穀豊穡の象徴とされ、「丸型」は角が立たないことから円満の象徴とされている。どの形も実に縁起がよいのだ。

さらに、「おにぎり」という呼び名には、「鬼を切る」という言葉遊びから、邪気を払い、災いを遠ざけるという意味が込められているという説もある。昔話には、にぎりめしを鬼に投げつけて退治したという逸話も残っている。

一方で、「おむすび」という呼び名には、「縁を結ぶ」という意味が重なる。人と人との縁を結び、心を結び、想いを結ぶ。誰かが誰かのことを思い浮かべながら、心を込めて握ったおむすびが、なぜか特別に美味しく感じられたり、力や勇気が湧いてきたりするもの、そこに理由があるのかもしれない。

日々の生活の中では、うまくいかないこともあれば、途方に暮れることもある。しかし、その経験の一つ一つが、次の自分への準備になっている。誰かのことを思い、心を込めて行動することは、やがて自分自身の力となって戻ってくる。

炊き立ての御飯のように、温かくふっくらとした素晴らしい明日を、みんなで迎えたいものである。